



TITLE:

静脩 Vol. 18 No. 1 (1981.5) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 18 No. 1 (1981.5) [全文]. 静脩 1981, 18(1)

ISSUE DATE:

1981-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65972>

RIGHT:



静脩

1981年5月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 18, No. 1

読 ・ 書 ・ 考

経済学部教授 平 井 俊 彦

私が京都大学に入学したのは、昭和二十年のことだから、今年で三十六年もの間、この大学のお世話になっている。私は自分の仲間に比べて、それほど蔵書が多い部類に入っているとは思わない。それでも、学生時代から主に文献だけを頼りに研究にたずさわってきたこともあって、ぼつぼつ買い集めた書物の冊数だけは、かなりの量にのぼる。せっかく、本を整理したいと思って書斎を作ってはみたものの、いつの間にか、本棚には入り切らずに、床の上や廊下に、文字通り「積んどく」ことになる。整理がつかぬから、同じ本を二重に買ってくることも間々ある。ときどき、不要なものを処分して新陳代謝を試みればと思いつながら、処分する段となると、なかなか思い切りがつかない。女房も掃除の邪魔になるといってよく小言をいっていたが、最近はどうにもならないと諦めてしまったようだ。

時代とともに、書物の数も増加する。読みたい書物は、自分の専門領域に関する書物だけに限らない。そのなかには、古典もあれば、現在のトピックになっているものもあり、巾はかなり広い。それに、『エミール』の指摘をまつまでもなく、人生はあまりにも短い。限りある時間のなかで、無限に近い書物を読むわけにはいかない。自分の専門領域にかぎっても、かなりの量にのぼる。もちろん、その読み方には、ほぼどんなことが書い

てあるか見当をつけるだけでよいものもあれば、一字一句ゆるがせにできない書物もある。

対象や関心によって、読書には、速読と熟読があるのは当然である。

毎年、みずず書房から年末になると「読書アンケート」が来る。できるだけ答えることにしているが、その年に読んだもののうち五冊をあげよという問いにも、かなり考えさせられる。その中でも、忘れていくものもあれば、いつまでも心に残ってはなれぬものもある。書物とは、人生における先達や友との出会いなのだろうか。読み捨てばやりの時代なのだが、苦勞して読んだ書物でなければ、身につくものではない。近ごろ、ゼミに入ってくる学生に、教養部時代に感激した書物をあげてほしいと質問すると、まともに答えられる人が少ないのは淋しい。ことに、青年時代には、骨のある書物をじっくり、読みこなす修練をつけたいものである。学生時代、出口先生のゼミナールでウェーバーの「社会科学的認識の客観性」の論文をドイツ語で読んでもらったのだが、一つ一つ問題を検討するので、ときには、三時間でわずかに一ページしか読めなかったことが、思い出される。すでに、この時から三十年以上たった今日でも、読み返してみると、何が問題だったかが、鮮かによみがえるのである。

たしか、西田幾多郎先生の言葉だったと思うが

「読み、書き、考える」というのがある。読書の極意を伝えていて、味わい深い。問題意識なしに、読むのは、単に活字をひろっているだけのことである。読書とは、著者との対話である。一つ一つ問題を考えながら読まなければ、著者の真意を汲みとれないし、自分の思考を錬えることができない。また、注意をひくためには、書くことが重要である。そのつど、自分の考え方をまとめておくことは、読書力と思考力を養うのには欠かせない条件である。急がば、廻れである。読書だけは、省エネであってはならない。どんな書物で

も、というわけにはいかないが、まともに取り組もうとするばあいには、「読・書・考」は守るべき鉄則であろう。論文を書くときには、当然のことだが、時間や雑用に追われる今日、それ以外の書物となると、なかなかこうはいかない。せめて、ときたま出会ういい書物を読むばあいには、こうした鉄則をふみはずさぬよう努めたいと、考えている。限りのある人生である。よい人とともに、よい書物との出会いは、大切にしたいものである。

——解説・コンピュータによる情報検索——②

JOIS (JICST オンライン情報システム) について

薬学部図書掛長 益 田 義 孝

1. 昭和32年に設立された JICST は科学技術政策の中枢部を自認する特殊法人である。昭和51年に特定回線、53年から公衆通信回線網を使うオンラインによる情報サービス JOIS-I を開始している。また56年4月から JOIS-II に移行し、さらにシステムアップしている。検索対象ファイルも表1,2に示す如く、かなり充実している。近く BIOSIS (生物学), CAB (農学) を入れる予

定であるが、さらに CANCERLIT (がん), INSPEC (物理・電気) 等のデータベースも追加計画があるので、これからの JOIS-II の発展が期待される。ここでは公衆通信回線を通じて、JOIS を使用する際の最小限必要と思われる事を記してみる。

2. 各種のデータベースを理解する上で、是非とも必要な事は自然語と統制キーワードの相違を

知っておく事でしょう。自然語とは文献中に表われる通常の用語であり、統制キーワードとは特定のシソーラスによって規定され、索引作成上あるいは文献検索上で使用を許された用語です。主として自然語による検索の利点を生かしたものに、CASEARCHがあり、統制語キーワードによる検索方式を主としているものに MEDLINE, JICST がある。後者の場合は MeSH (医学用語を規制する語い集) 等で強力にコントロールされた索引誌 Index Medicus 等が原資料なので専門のサーチャーによ

第1表 JOISデータベース一覧表

	データベース名	収録期間	備 考
文 献 フ ァ イ ル	JICST 科学技術 文献ファイル	1975年4月～現在	JICST 発行の「科学 技術文献速報」に対応。
	CA SEARCH化学 文献ファイル	1977年1月～現在	米国 CAS 発行の 「Chem. Abst.」に対応。
	MEDLINE 医学 文献ファイル	1976年1月～現在	米国国立医学図書館 発行の「Index Medi- cus」に対応。
	TOXLINE 毒性 文献ファイル	1977年1月～現在	Chem. Abst., Index Medicus など 8種に対応。
研 究 情 報 フ ァ イ ル	JICST 科学技術 研究情報ファイル	1976年 ～現在	日本国内の公共試験 研究機関約 540機関 の研究テーマ
	SSIE 研究情報ファイル	1980年～	米国内の約 1,300機 関の進行中、計画中 の研究テーマ

第2表 JOIS検索補助用
データベース

データベース名
JICST 科学技術用語 シソーラスファイル
JICST 資料所蔵 目録ファイル
CAS 化合物ファイル
CHEMLINE 化合物ファイル
MeSH 医学用語ファイル

の方が良い結果を得やすい。検索専門家ではない一般の研究者が自分で端末機を操作するシステムを採用する所では CA SEARCH ファイルの方が何がしかの結果を得やすいのではないかとと思われる。

3. JOIS-II では、利用者が質問すると例-1,2 の様な文献情報をデータベースの中から検索して回答する。各文献には、その中身を表わすキーワードや分類コードが与えられており、図書類の索

引に相当する役割を果たす。文献を探索する目印に使われるものであるから検索タグ（標識）と呼ばれている。システムへの質問は検索タグを演算項とする論理式で表現される。著者名、著者の所属機関、キーワード、分類コード等を先ず検索すべき1次検索タグとし、検索された文献集合の中から、さらに国名コード、言語コード等の2次検索タグを使って会話を続け質問の焦点を絞って行くことになる。

CA Search F 形式

```
# [回答番号]
CN = [記事番号]△[HISTORY NOTE]
TI = [英文標題]
AU = [著者名]△[所属部署]△[所属機関]△[所在地]△[著者名]……
      または [特許発明者名]
CA = [団体著者名または特許出願人名]
JN = [CODEN]△[ISSN]△[資料略名または特許の国名とタイプ]
VN = VOL. [巻]△NO. [号または特許番号]△PAGE. [ページ]△[年または特許公告日]
      -▽[図]
```

```
CI = ([資料種別]△[特許出願番号] [優先権国]△[会議開催日または特許出願日])△
      ([言語]△[言語])
PS = [発行団体名]△[所在地]
AV = [入手先]
CC = [分類セクション・サブセクション]△[分類セクション]△[特許分類]
KW = [キーワード GSI] ; △[キーワード GSI] ; ……
FT△ [フリーキーワード KWP, TM の語] ; △[フリーキーワード KWP, TM の語] ; ……
RN = [化合物登録番号] ; △[化合物登録番号] ; △[化合物登録番号]
```

例-1

例-1は CA SEARCH ファイルの出力フォーマットである。F形式は抄録以外の全項目を出力する場合の形式名である。

検索可能項目のインバーテッドファイル（文献データベースの各文献と検索タグの関係を蓄積するファイル）を使って検索する方法を1次検索と言うが、ここでKW：キーワード（統制語）、FT：フリーテキスト語（自然語）、RN：レジストリーナンバー（化合物登録番号）、CC：分類コード、AU：著者名、AA：所属機関、JN：資料番号（CODEN, ISSN）等の項目が1次検索タグとなっている。

1次検索で得た文献集合に標題の語、著者所属機関、資料名、使用言語、発行年等の項目によって制限を加える（＝目的を絞る）為に2次検索タグを使う。

また JOIS-II では補助用データベースとして CASNAME, CHEMLINE が付加されており（第2表）、例えば CA SEARCH ファイルを化合物名の CA 巻末索引語から検索する場合には、CASNAME で該当の化合物登録番号を知り CA

SEARCH ファイルで検索すると良い。レジストリーナンバーの重要性が大きくなった CA 情報に対して有効な道具を得た事になる。

MEDLINE ファイルの回答例を例-2 に示す。ここでは出力形式 X で指示しているので抄録が出力されている。このファイルを使用する際には（どの場合もそうなのだが）特に詳細に検索テーマの概念分析、用語の調査等を行い正確なキーワードを選んでおく方が良い結果を得られるし、データベース使用料も節約できるようなのである。前述の MeSH (Medical Subject Headings) や医学用語辞典は必須の補助資料である。¥ MESH コマンドを使うと MeSH タームから Tree Number を知る事ができるようになったので便利である。

MEDLINE ファイルの1次検索では MeSH ターム, MeSH Tree Number 及びそれらを組み合わせたものは直接入力できるが、その他の検索タグはタグコードと：(コロン) を付ける。また、FT：(自然キーワード) を使えるようになったので、伝記の人名と標題抽出語で FT：……と入力すると効果的な検索を展開できる場合がある。

MEDLINE

回答番号

CN= 記事番号

TI= 英文標題

AU= 著者名 ; Δ 著者名 ...

JN= ISSN Δ 資料略名

VN= VOL. 卷 Δ NO. 号 Δ PAGE. ページ Δ 年 - 年

CI= (言語 Δ 言語 Δ 言語) Δ (国名) Δ (参考文献)

KW= ディスクリプタ/副見出語 ; Δ ディスクリプタ/副見出語 ; Δ ディスクリプタ/副見出語 ...

FT= フリーキーワード ; Δ フリーキーワード ; Δ フリーキーワード

AB= 抄録

例—2

MeSH タームは MeSH に記載されている通りに、スペースやコンマに注意して入力しなければならない。2次検索タグは JOIS-I とほぼ同じであるが、著者名、資料番号が使えなくなり、新たに英文標題、資料名、レンジ指定が加えられた。「レンジ指定」とはデータベースの年月や巻号単位で検索範囲を指定するものである。°RG= ……の様に使う。制限式検索は2次タグの検索に適用する。主に使用言語、発行国、発行年、資料種別で制限することが多い。応答例を示すと、

[9] U: 1* (4+5+6) ……論理式検索

S: 60ケン ……文献集合

[10] U: LN= JA ……日本語

S: 30ケン ……解答

上記の例では文献集合60件を「日本語」で絞ったところ30件と言う解答を得たことになる。

4. この他に基本的なコマンドの説明を加えると、会話の開始は ¥JOIS, 終了は ¥END コマンドを入力する。例-3は JICST ファイルを換索する際の手始めに必要な手順である。会話の途中で検索対象ファイルを切り換えたい時は、その時点で ¥FILE コマンドを入力すればよい。JOIS-I ではこのコマンドが無かったのだから随分便利になったものだと思う。

JOIS-II の総合的な評価としては、形式の面では ORBIT に近く、表示機能は DIALOG の長所を採用している為に両面の中間的な性格を持つと言われている。

¥JOIS 13J-0140, SEARCHER ← リョウシヤ コード

S: パ°スワート° ハ? ← サ-チャ-メイ

U: ← ユ-サ°ハ°スワート°

S: サ-ヒ°ス オ カイシ シマス 1981. 01. 16 ← JICST ファイル

U: ¥FILE 010/ALL

S: JICST (1980. 04 -1980. 4-7) 129,241 (17:00 マテ°) ← カイワ ハンコウ

シツモン オ カイシ シマス 14:28:18 カイワ ハンコウ 32

JICST-COPYRIGHT

例—3 会話の開始手続

昭和55年度外国図書（大型コレクション）

「ペルシア語イラン文献資料集成」



1

本学は、昭和55年度「外国図書（大型コレクション）」購入費の配分を文部省から受け、「ペルシア語イラン文献資料集成」を購入することができた。

この資料は、1,129部、1,575冊に及ぶ大部のもので、大部分はペルシア語で書かれているが、アラビア語のものも少し含まれている。内容的には文学・言語学：405点、歴史：262点、哲学・神学：134点をはじめ、参考図書、地理・旅行記、美術・考古学、自然科学等、多分野にまたがっている。なかでも、重要な資料として、16～18世紀の特殊文献も含んでおり、これらは二度と入手できないもので、チムール朝、サファヴィー朝期の研究に大変有益なものである。

大部分はイラン（主としてテヘラン）で刊行された活字本であるが、若干の石版刷りも含まれている。イランの他に、アフガニスタン（カブール）、パキスタン（カラチ、ラホール）、インド（カルカッタ、ハイデラバード、ボンベイ等）、トルコ（アンカラ、イスタンブール）、ソ連（モスクワ、バクー）等で刊行されたペルシア語書籍等も見出される。このコレクションの特徴を一口

で表現するなら、(1)時代的には古代～現代、と非常に長期間で、(2)地域的には広範囲、の文献であることがいえる。これらは昨今のイスラム革命により、出版状況をはじめさまざまな社会状況が激変したため、今後、入手することはほとんど不可能である。

2

我が国におけるペルシア語文献の収集は、未だ決して多いものではない。現在のところ、最も多く所蔵しているのは東洋文庫であるが、それともアラビア語や現代トルコ語文献に比べ、ペルシア語文献の収集は遅れている。

本学においても、文学部附属羽田記念館が永年の現地調査と科学研究費によって収集されており、研究者に有効に活用されているが、今回のコレクションと併せ、原典に基づく研究活動の巾が広がり、全国的な利用が期待される。

このコレクションの入手を契機として、関係機関との提携により、イスラム学の研究はますます発展していくことだろう。

3

このコレクションは“ひとまとまり”のコレクションとして意義があるため、各図書の内容による分類箇所に分かれて配架するよりも、“ペルシア語文献”として一箇所にまとめた方が利用上からも非常に便利である。従って、附属図書館では「請求記号」を「ペルシア」の1, 2, 3……という一連番号で配架している。

利用者に対しては、全国の研究者の便益に資するよう目録を早く作成することが、このようにまとまったコレクションを入手できた図書館の責務と考え、購入後、ただちに作業に入り4月に脱稿、6月には『京都大学附属図書館所蔵ペルシア語文献目録』として印刷完了した。

目録の作成にあたってはペルシア語であるため、文学部西南アジア史学講座の方々のお世話に

なった。その過程では、我が国に未だペルシア語文献のまとまった目録がないため、今後、他機関で作成される時の一つの標準的なものとなることも想定し、記述項目、正確さ等について参考資料による検証には相当の労力を要した作業であった。その結果、本文：155頁、索引：54頁、計209頁におよぶ目録が完成した。関係者一同、慶びひとしおである。参考のために分類項目と点数を記しておく。

1. 全般・一般参考図書	113点
2. 歴史	262
3. 伝記と物語	59

4. 地理・旅行記	51
5. 美術・考古学	31
6. 文学・言語学	405
7. 哲学・神学	134
8. 社会学	9
9. 純粋科学と実用科学	56
10. 新聞・雑誌	20

西南アジア史学講座の皆さま方に深く感謝する。

(注) このコレクションは、附属図書館に配置している。

明治初年の貸出規則について

「神陵史」によれば、「ここにいたるまでの経緯からいえば、三高と京都帝国大学とは幹を同じくした二本の分校と……」述べられているように舎密局に始まって再三改名されながら第三高等学校となった歴史は、京都大学の歴史であるとも言える。従って京大の図書館史を考える場合、舎密局のそれまで遡る必要があると思われる。

近代的な図書館の源流として、「書籍館」或は「書籍縦覧所」が誕生するのであるが、明治7年12月に大坂英語学校と名を変えて間もない明治9年に、ここでも「書籍縦覧所」が大阪城の西隣りで加藤清正の旧邸があったといわれている屋敷跡の「遠侍」というところに設置されている。「遠侍」というのは、「内侍」（主殿に近い場所に居る侍）に対して、門のそばにあって「門番所」の向かいにつめていた侍・場所のことである。

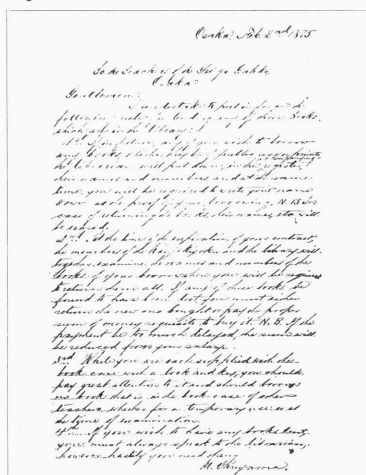
それよりも少し前の明治8年2月に、大坂英語学校の書籍掛が学校長に対して次のような伺書を提出して決裁を得ている。

教師公私用共書籍拝借之規則不相立右様不取締ニテハ終ニ紛失之憂ヲ引候起哉モ難斗、就而ハ以来別紙之規則相立出納致度、此段相伺候也

明治八年第二月二日

明治2年5月1日に教頭の和蘭第二等官医ク・ウ・ハラタマや御用掛田中芳男及び平田助左衛門等の多大の尽力によって舎密局が発足し、書籍掛

が書籍の購入を続けた結果、この頃には英書4,544冊、仏書1,038冊、蘭書21、和書933冊、合計6,536冊を所蔵していたが、「貸出規則」と言ったものがなかったのが、初めて4カ条からなる「書籍拝借心得」が誕生し、しかもそれが英文を主体として日本文が従となっている点、お雇い外国人が居たにせよ、明治維新後のあわたたしさの中にあって、なお格調の高さを物語っていると言えないだろうか。そしてそこには現在各大学図書館に設けられている貸出規則の源流を見、かつ当時の出納事務の様子をうかがうことができるようでもある。京大における最初の「閲覧規則」であると思われるので今両文を紹介して図書館史のひとつまとしてたい。



書籍拝借心得

一、教授用本タリトモ爾来此簿（借用簿のこと・筆者注）へ表題番号等相認書籍相渡シ候条其都度拝借ノ証トシテ自分姓名可相認事

但返納ノ節ハ其表題等消却可致事

一、満期雇止ノ節ハ監事并書籍掛ト立合表題等照準シ夫々可引渡尤其節紛失致居候ハ、書籍或ハ代価ヲ以テ償却可致事

但遅延ニ及候ハ、月給内ヨリ其代価差引候

事

一、錠前付ノ本箱鍵共相渡シ置候上ハ嚴重取締可致ハ勿論試験及一時入用ノ為他ノ教師拝借ノ書籍借用致間敷事

一、緩急ヲ論ゼズ書籍入用ノ節ハ其都度書籍掛ヘ可申出事

西洋一千八百七十五年 校長

我明治八年乙亥第二月 奥山政敬

（教養部 古原雅夫）

—— 図書室めぐり ——

理 学 部 中 央 図 書 室

図書資料の集中化は是か非か。

理学部の今後の図書業務を方向づける「中央図書室構想」が具体的にスタートしたのが、中央事務室に図書掛が新設された昭和54年4月のことであった。

それ以前にも、北部キャンパスでの図書館統合の計画—いわゆる北部図書館構想がいろいろの場で議論されてきた。しかし、昭和53—54年ごろより理学部独自でその方向を見出すべく、理学部図書委員会を中心に議論が進んできた。

54年度には8回、55年度には9回の図書委員会を開き、その大半の時間を中央図書室計画に割いてきた。その間、昭和55年4月17日の理学部協議会において図書委員会報告を提案し、大筋の了承を得た。

その骨子は：

1. 中央図書室と教室・附属施設図書室との関係
2. 中央図書室の機能
 - 1) 学生用図書資料の整備
 - 2) 学術文献資料—特に二次資料の整備
 - 3) 貴重書等の保管管理
 - 4) 学術情報システムへの対応—情報センター構想の推進
3. 中央図書室の管理・運営
4. 中央図書室の予算



5. 中央図書室と学部図書委員会との関係等について触れている。

これを具体化するため、当面、総面積782㎡を理学部1号館に確保して整備を進めることになった。

その第一次整備計画として、昭和55年度には、このうち232㎡（閲覧席24席、開架書架、事務室、複写室、保存書庫を含む）の整備新設を計った。

又、資料としては、自然系外国雑誌25タイトル及び学生用図書（第1次）を55年度分より配置した。その他、各教室・附属施設受入・所蔵の学生向図書の一部の拠出を仰ぎ、これらの資料を中心

に一応の体制ができた。

明治30年創設の理学部は、現在10教室、14施設を持ち、それぞれの図書室には、主として研究用の図書約21万冊、学術雑誌約5000タイトルを所蔵している。永い歴史と伝統を持つ各図書室と中央図書室との関係は、資料、予算、人的な面からいかに調整を計ってゆくかは、今までの議論の中心テーマであったし、まだ残された課題でもある。

本年4月よりスタートした中央図書室は、まだ日も浅く、蔵書も少ないことなどから利用者は少ない。しかし、徐々に内容を充実するため努力している。

又、昭和54年4月以降受入の理学部全体の書名

目録、著者目録及び中央図書室分の分類目録、さらに理学部雑誌目録の編成を行っている。

その他、中央図書室（図書掛）として、学部全体の図書関係の情報（各種データ）の把握に力を注いでいる。

現在の職員3人で閲覧業務も含め、まだきこまかい充分なサービスに手がまわらないのが実状であるが、幼児期より大きく成長するよう頑張っている。

今後の第二次、第三次整備計画についても、学部全体及び附属図書館、各局図書室の理解と協力を仰ぐ次第である。



附属図書館図書の館外貸出しについて

附属図書館開架図書館外貸出し手続き、及び取扱いの変更にもなって、図書館図書の館外貸出を下記の通り実施致します。御利用下さい。

(1) 貸出手続き

図書の貸出しの手続きには学生証、職員証を呈示下さい。開架図書は開架図書室カウンターに、書庫内図書は閲覧貸付掛カウンターに申し出て下さい。

(2) 貸出期間と冊数

身 分		期 間	書庫・開架貸出 合 計 冊 数
職 員	教 官	6ヶ月以内	30冊以内
	教官以外の者	1ヶ月以内	10冊以内
学 生	大学院学生	1ヶ月以内	10冊以内
	学部学生	2週間以内	5冊以内

但し、開架図書貸出期間は身分をとわず2週間以内

(3) 実施 昭和56年4月1日より実施

※ 図書館利用案内 p.8～9「館外貸出」の訂正

京都大学附属図書館閲覧貸付掛